

産学連携の大型化とスピードアップに向けて

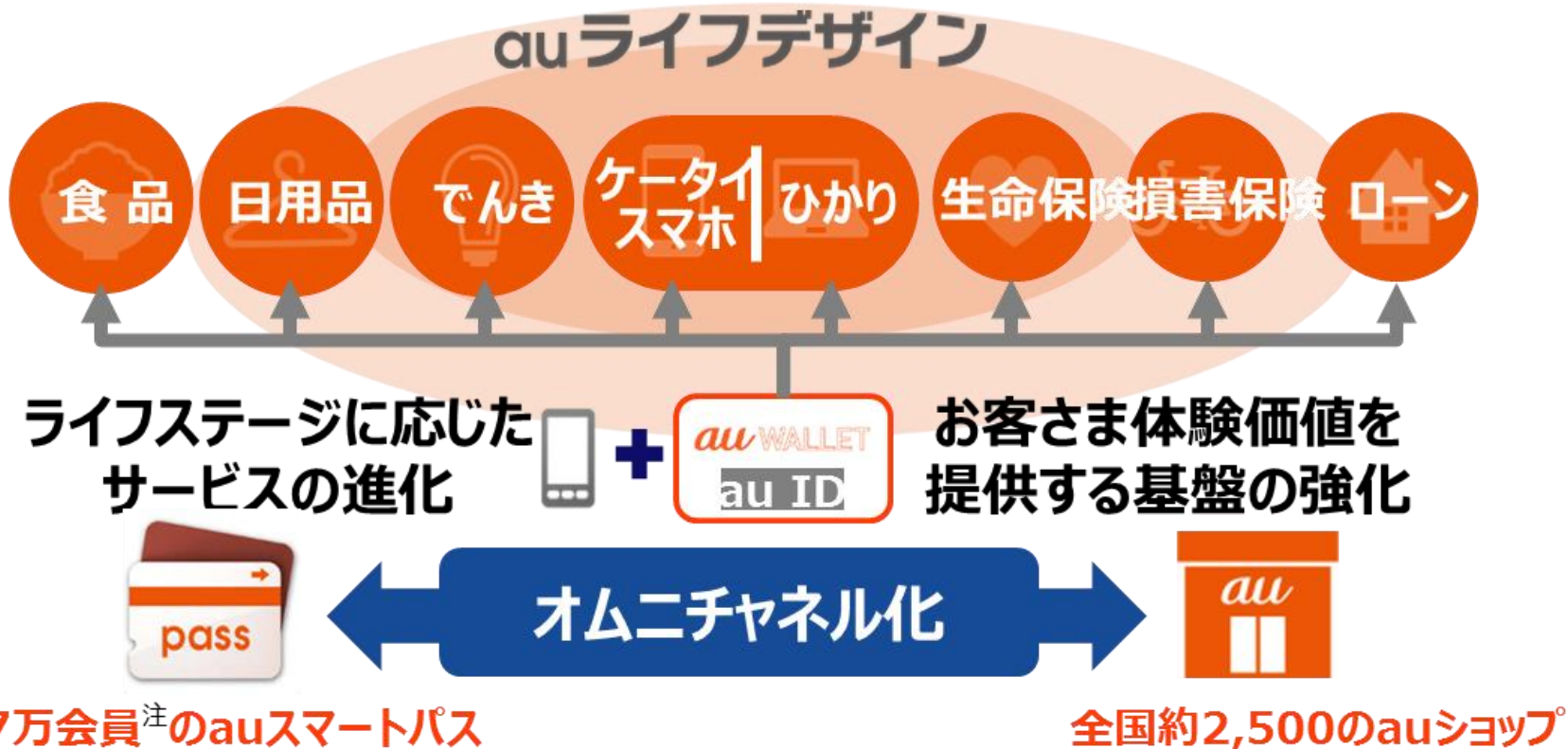
KDDI 技術開発本部

2016/10/13



- 1. 共同研究への期待**
- 2. 産学連携大型化に向けて**
- 3. 産学連携スピードアップに向けて**
- 4. まとめ（4つの論点）**

通信事業の持続的成長をはかりつつ ライフデザイン企業への変革を目指す



共同研究により、オープンイノベーションによる 差別化、コスト削減、研究開発の加速を期待

■ 弊社の研究開発拠点

(株)KDDI研究所

(株)KDDI総研

(株) KDDI総合研究所
300名規模

■ オープンイノベーション

主にKDDI総合研究所がイノベーション実現のための研究を
大学、研究開発法人、企業等と連携し実施

主要な目的：

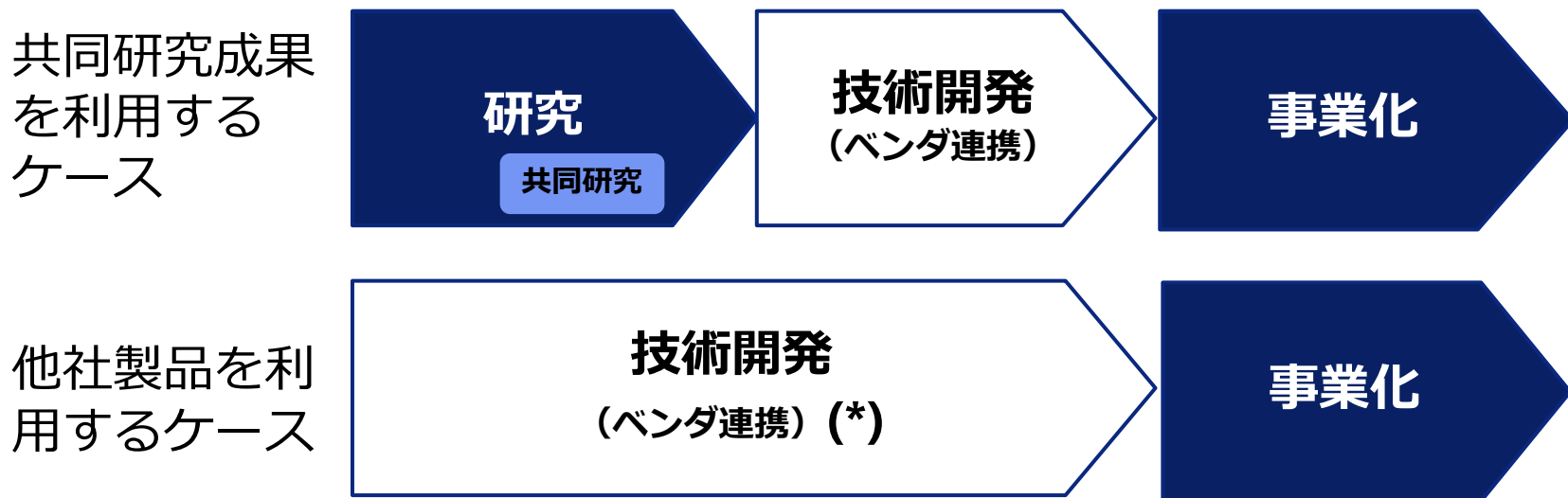
- ・ KDDI事業の差別化とコスト削減の実現
- ・ ライフデザイン分野（新規事業）に対する研究開発の加速化

2-1. 弊社の共同研究の現状

**弊社は事業化の技術開発をベンダーと連携して実施
共同研究は研究段階での評価・実証にとどまるため小粒**

※) 300万円以下が全体の約96%

■ KDDIにおける研究から事業化へのプロセス



ベンダ連携の例：携帯電話の新インフラについてベンダーとPoC (Proof of Concept)を実施

2-2. 連携の大型化に向けて

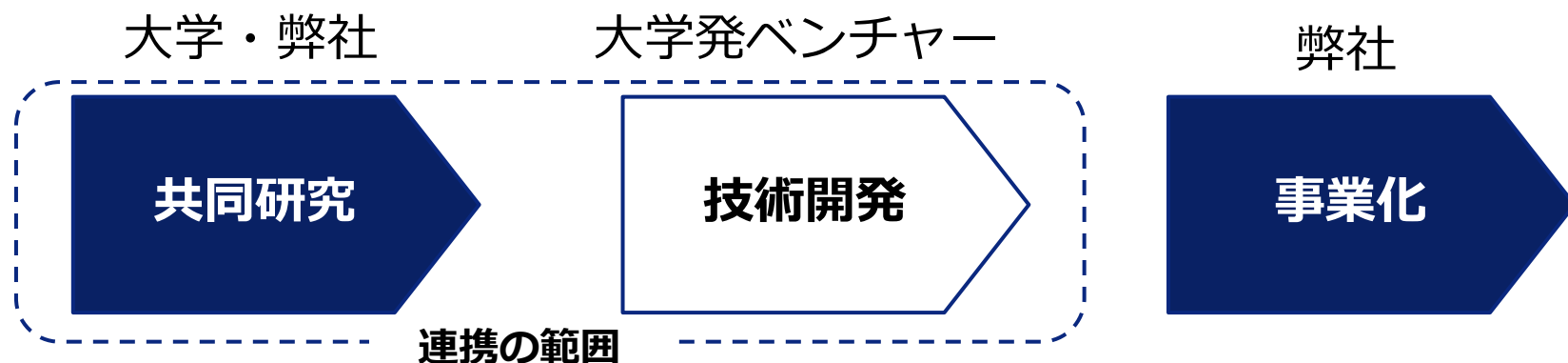
- 研究から技術開発にいたる連携により案件は大型化
- 事業化までの時間も短縮

■ KDDIにおける研究から事業化へのプロセス



- 評価・実証にとどまらず、事業化を見据えたアウトプットの創出
- 共同研究先と密に連携でき、事業化後も保守までできる体制による技術開発（大学発ベンチャー等）

共同研究の成果を利用して大学発ベンチャーで 事業用設備（ビッグデータ処理可視化）を開発



両者

- ・ シーズ・ニーズマッチング

大学

- ・ BD高速処理モジュール提供
- ・ 可視化モジュール提供

弊社

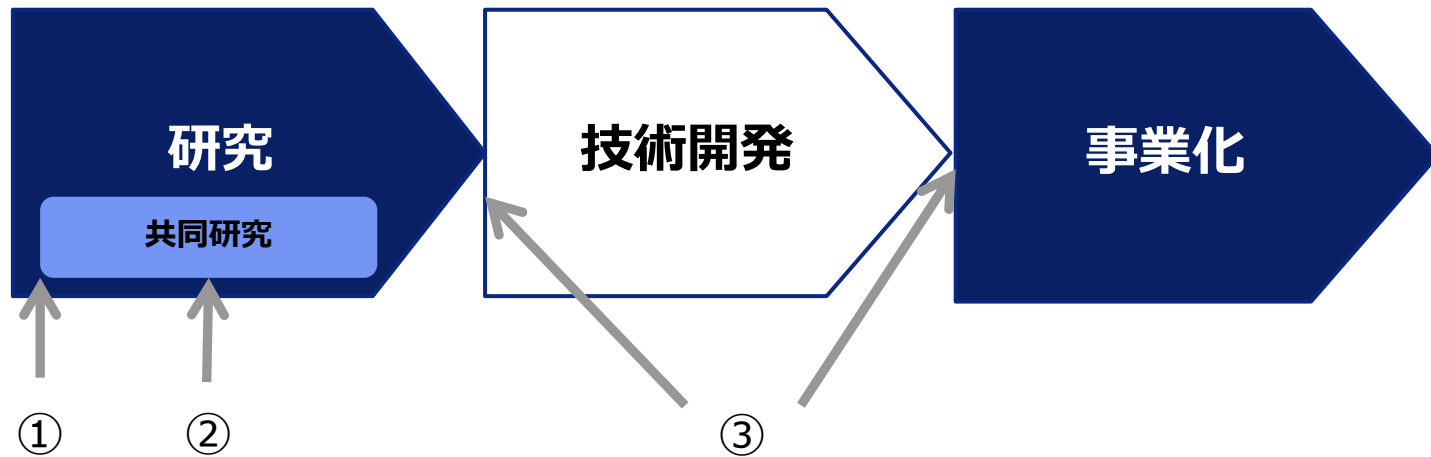
- ・ BD提供
- ・ 分析手法検討

- ・ モジュールをコアとして利用した可視化SW開
- ・ HWと組合せシステム化
- ・ SWの保守
- ・ 知財管理

- ・ 事業用設備として運用
- ・ 大学発ベンチャーへのライセンス支払い

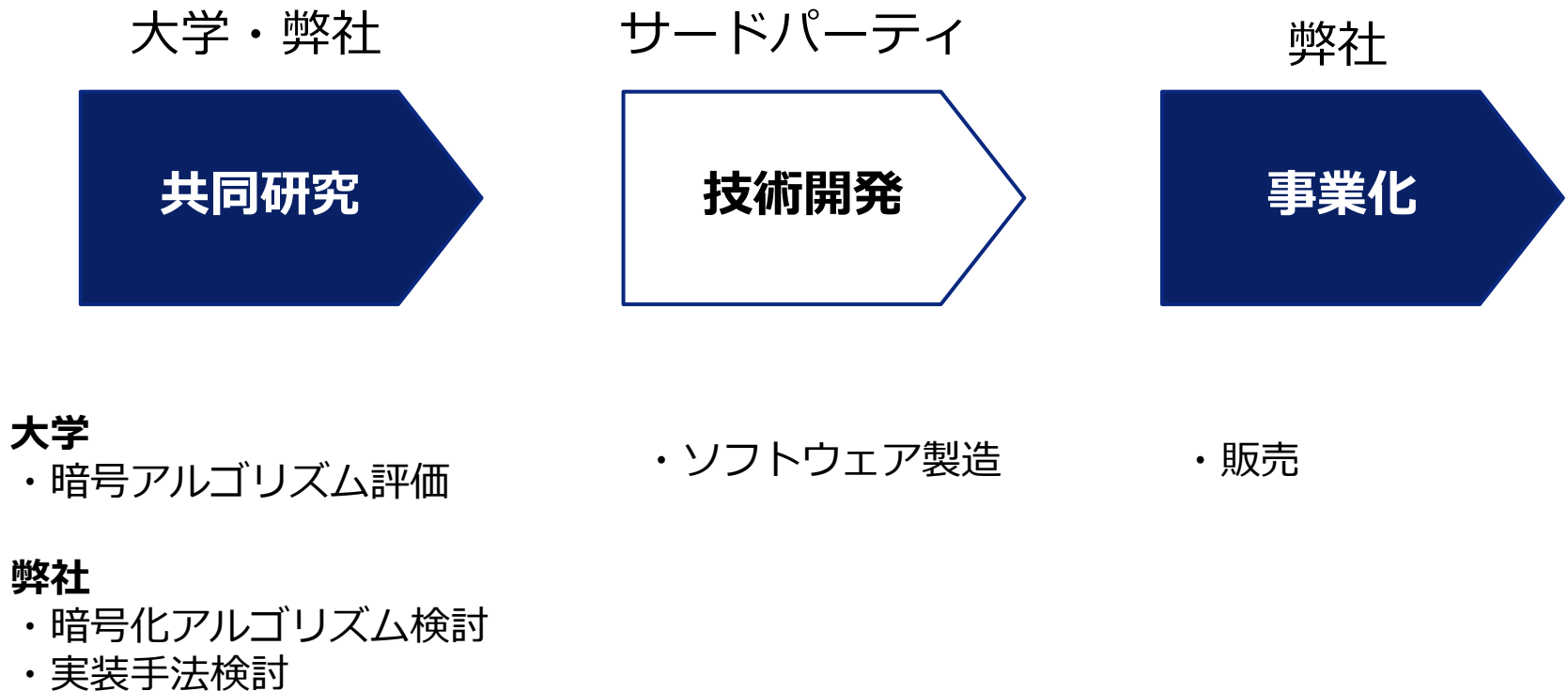
3-1. 共同研究プロセス毎の遅延リスクと対応

- 共同研究の現場では様々な原因により遅延発生
- プロセス改善によりスピードアップが可能



遅延リスク	課題	改善
① 開始時遅延リスク	契約関連の確認と調整	実状にあった柔軟な契約方法のガイドライン化と導入
② 実施時遅延リスク	研究リソースの管理	本部等による全体進捗の管理・ エスカレーション先の明確化 工程管理スキルの向上
③ 実施後リスク	知財関連の整理	実状にあった柔軟な契約方法のガイドライン化と導入

共同研究により携帯電話に適した暗号化アルゴリズムを想定を超える短期間で開発



開始時の契約関連整理と、実施時の研究リソース管理等の協調したプロジェクトマネージメントががうまくいき、評価の高い成果をあげることができた。

弊社における顕著な事例からの要望

【大学本部機能の強化】

共同研究リソースの管理不足によるスケジュール遅延リスク

- 組織対組織としてプロジェクトが進行できる体制構築
- 問題発生時のエスカレーション先の明確化

【資金の好循環】

大型化により工程毎の資金投入が多様化し、それによる資金過不足判断の必要性

- 工程毎の経費可視化

弊社における顕著な事例からの要望

【知の好循環】

不実施保証等契約の硬直したテンプレート使用による研究開始までの契約期間長期化、契約断念

- ・ 特許に対する柔軟な対応と専門リソースのアサイン
- ・ 不実施保証の不要な許諾範囲の明確化

【人材の好循環】

産学の相互理解不足によるプロジェクトマネジメント不全

- ・ クロスアポイント等による確実なリソースのアサイン
- ・ 産学の人材交流による相互の意識改革

Designing The Future

